

「文部科学省の研究大学強化促進事業」に採択！

世界レベルの研究拠点たる

リサーチ・ユニバーシティ岡山大学を推進

岡山大学は今年8月、文部科学省が大学の研究力向上を目指し本年度創設した「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択された。今年度から10年間にわたり毎年2億円の助成を受け、大学全体の研究環境整備に取り組み、山本進一・研究担当理事に採択に至った思いや今後の具体的な活動方針・目標について聞いた。

世界で研究の量、質とともに 存在感を示す大学に

一定の理解を有しつつ研究資金の調達・管理、知財の管理・活用などを行う人材が十分ではないため、研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあり、改善するため文部科学省は2012年に「リサーチ・アドミニストレーター（URA）」を育成・確保するシステムの整備」を始めた。URAの運用はそれによるところが大きい。岡山大学は自己資金でURAを採用し、同年9月、リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学」という地位を確立するための研究方針の策定や大学改革の推進支援を役割とし、経営的判断に立って行動する「戦略的プログラム支援ユニット（URA）」を設置した。同事業採択においては申請のための情報収集やデータ解析、申請書作成、ヒアリング対応などでURAが果たした役割は極めて大きく、URAがいなければ採択されなかったと言っても過言ではない。

具体的な活動方針は

岡山大学が世界においてトップレベルの大学となるためには、現在の岡山大学が持つ強みを生かすことが重要だ。すでに実績があり、世界レベルの研究分野である物理学と基礎生命科学を軸とし、「極限量子」「超伝導・有機エレクトロニクス」「生体光変換システム」の3つの研究拠点をフロントとして強めながら、新設する研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構（G研究機構）」を中心に研究に専念できる制度

文部科学省の「研究大学強化促進事業」に採択された。どうとらえているか。

同事業は世界水準の研究力を持つ大学・機関を強化することで国際的な地位が低下している日本の研究競争力の向上を図る狙いで、支援対象に22の大学・機関（17国立大学、2私立大学、3研究機関）が採択された。岡山大学が選ばれ、研究担当理事としては正直ほっとしている。中四国地方では岡山大学と広島大学だけであり、より研究に重点を置くというミッションが文部科学省に認められたということはある意味で岡山大学の研究ブランドが確立されたといえるだろう。今回の選考方法は文部科学省が行ってきたこれまでの競争的資金制度におけるそれとは異なり、誰もが自由に応募できるものではなく、科学研究費等の資金獲得状況、論文の引用度、国際共著論文の数、産学官連

促進事業では基礎研究を、臨床研究中核病院整備事業では研究による社会貢献を、COI STREAMでは研究による産学官連携をそれぞれ強化していきたい。文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」に認定されている資源植物科学研究所（植物研、倉敷市）、地球物質科学研究センター（地球研、鳥取県三朝町）

採択決定に尽力したURA（リサーチ・アドミニストレーター、University Research Administrator 略）とは。

大学などにおいて研究者とともに研究活動の企画や研究成果の活用促進などを総合的にマネジメントできる研究開発に知見のある人材のこと。日本の大学・機関では、研究開発内容について

リサーチ・ユニバーシティ・岡山大学の 実現に向けて

改革、研究者支援人材としてのURAの増強や実力のある研究員の招聘、国際共同研究の推進、産業界との大型連携の強化などに取り組み、研究活動の一層の活性化につなげる。特に物理学、基礎生命科学分野においてはその強みを伸ばして世界で量（論文数）、質（相対被引用度）ともに存在感を示し、日本の研究活動の牽引大学になることを目指す。そして、その成果を全学的に波及させることにより、岡山大学全体の研究力を向上する仕組みを構築したいと考える。

岡山大学には磨けば光る「宝石」が数多くあり、今後の伸びが大いに期待できる。幸いにも岡山大学はSpringer X線自由電子レーザー施設SACLA、スパコン「京」など国家基幹技術の施設に近く、その分野の研究も行われており、それを生かさない手はない。同事業をはじめ、今年4月には岡山大学病院が厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業」に、10月には岡山大学のアドバンストナノカーボン複合構造材料研究開発センターが文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」に採択された。この3つすべてに選定された大学は全国で7大学（厳密には8大学）だけだ。とても誇らしいことであり、研究力強化の「三本の柱」がそろったわけで、研究大学強化



戦略的プログラム支援ユニット

岡山大学 URA

● URA (リサーチ・アドミニストレーター、University Research Administrator) の古矢修一氏、沼口徹氏に聞く——
自律的な
戦略的研究支援職員

— 取り組むべきミッションは。

5つのミッションがあるが、第一には「リサーチ・ユニバーシティ」。岡山大学の現況だ。岡山大学は「研究大学強化促進事業」の支援対象機関に採択されたが、それによって実現したわけではなく、実現への必要な条件が満たされたにすぎない。がんの克服、温暖化やエネルギーの枯渇対策といった社会がまさに解決しなければならぬといわれている大きな課題などに向き合いたい。そのためには研究のグランドデザイン構築の支援を行い、他大学や他研究機関とネットワークを組み、広域連携による大型プロジェクトの研究体制の起動、国家レベルの大型研究プロジェクトの提案を支援する。そして、URAとしてふさわしい人材を確保・育成し、研究支援が持続可能な組織をつくることもミッションだ。



— それを達成するための具体的な役割は。

学内のファンダメンタルなシーズを見つけ、その研究者の志向と社会のニーズを把握し、双方にとって最もインパクトのある成果が得られる仕組みを構築する。ファンディングエージェンシー（文部科学省や日本学術振興会など研究助成を行う機関のこと）と深くかかわり、新規助成・研究計画などの情報をいち早く入手し、あるいは逆に働きかけ、研究者とともにそれを形にして競争的資金を確保することが求められる。また、新たな市場創出への道筋を考え、大学として発信する学術シーズを次のプレーヤー（企業など）にシームレスに引き渡すプロモーターとしての役割もある。個々の研究者の研究活動を調整しながら研究者同士を繋ぎ、学長を補佐しつつ経営的判断に立って研究環境の改善や大学改革の起案・遂行にも携わる。岡山大学 URA は他大学に比べ、自律的な戦略的研究支援職員という立場で研究力向上や大学運営に直接的役割を果たすことに特徴がある。

— 研究推進産学官連携機構との違いは。

同機構は大学全体の研究者の底上げに着目した活動を行う。学術研究の成果である知的財産を組織的に管理・活用したり、大学の研究シーズが社会へ形となって届くよう産学官連携を推進する。URA は同機構で底上げされる研究のう

ちトップ研究者の研究をさらに伸ばすことに着目した活動を行う。その意味で同機構と URA はシームレスな連携のもとに運営されており、大学の研究力向上に協働する。

— 「研究大学強化促進事業」採択決定の決め手は。

岡山大学は以前から論文書誌情報に基づく研究力の強みや弱みを客観的に把握することに注力しており、論文書誌情報分析のインフラが整っている。同事業採択後ではあるが、全国に先駆け附属図書館で電子ジャーナルやデータベース、オンライン文献管理ソフトなどの

University
 Research
 Administrator

URA

ソーシャルメディアにおける研究成果への反応をリアルタイムで収集し、そのインパクトを定量的に表示する新しい研究評価指標「altmetrics」を導入している。われわれは構築されているインフラを利用して新たな切り口からデータ解析を行ったわけで、もとのツールがなければユニークな解析も行えなかっただろう。

— 今後の展望は。

戦略を立てるだけでなく助成金の獲得、新たな研究員の雇用、論文数の増大など、企業にいた経験を生かしてきちんと結果を残さなければというプレッシャーはある。どの研究者がどのような

研究を行っているかを把握し、20、30年後の世界の変化も考えながら若手研究員のサポートにも力を入れたい。岡山大学は旧帝大に比べて大学院博士課程に進む学生が圧倒的に少ない。新産業を起すような研究シーズを育て他大学にない強みを持つことで「岡山大学でもっと研究を続けたい」と思う学生を増やし、その学生が大学をより高めていくことにつながればと思う。岡山大学の卒業生は「伸びしろが大きい」との定評も聞く。URA を大いに活用していただき、世界で認められる岡山大学を目指したい。

岡山大学 URA 紹介



シニアリサーチ・アドミニストレーター
 担当：国際最新医療・創薬分野

■古矢 修一氏

武田薬品工業（株）で31年間、新薬研究開発やがん領域戦略の立案などに従事。元内閣官房知的財産戦略推進事務局政策参与。薬剤師、薬学博士。



シニアリサーチ・アドミニストレーター
 担当：革新的材料・活用技術分野

■沼口 徹氏

東洋エンジニアリング（株）で25年間、研究、プロセス開発などに携わり、精密フィルターなどの開発・販売を手掛ける日本ボール（株）で10年間、バイスプレジデントとして技術部門を統括。工学博士。



リサーチ・アドミニストレーター
 担当：国際最新医療・創薬分野、人文・社会科学分野

■佐藤 法仁氏

公務・企業で研究、開発投資などに従事。博士（歯学）。



リサーチ・アドミニストレーター
 担当：革新的材料・活用技術分野、国際技術移転分野

■宇根山 絵美氏

大学及び化学系企業で研究開発などに従事。Ph.D.